

【地域連携報告】

図書館から広がる地域連携

——知の拠点、地域の拠点を目指して——

小川佳菜子*・宮内博子**・甲田さと美***

1. はじめに

城西大学水田記念図書館^①は、図書室というかたちからスタートし、1978年に現在の図書館棟が竣工された。閲覧席856席、積層書庫5層を有する地上9階建ての図書館は、大学のシンボルとして学生に親しまれている。2018年、7・8階に新しくオープンしたラーニングcommonsは、新しい学びの場として教員や学生に多く利用され、図書館の活用の幅はますます広がっている。当館の蔵書およそ47万冊は学部に沿って構成され、電子ブックや電子ジャーナルなど多くの電子資料も提供している。また、2010年より立ち上げた城西大学機関リポジトリ「JURA」では、本学の紀要類、教育・研究成果、および学内広報資料などを公開している。

当館は、大学の理念に基づき、地域と共にある図書館を目指しており、近隣公共図書館との連携や一般の方への利用開放などの地域貢献活動にも力を入れている。今回は、これらの地域貢献活動について、事例を交えて紹介する。

2. 地域相互協力図書館連携事業

2.1 地域連携のはじまり

今から14年前の2007年1月19日、埼玉県図書館協会平成18年度図書館ネットワーク研修会において、埼玉県内公共図書館と埼玉県内大学図書館間の相互協力要領について図書館ネットワーク専門委員会の試案が示された。これを受け、地域の公共図書館とネットワークを構築し、図書館活動を拡張していきたいと考えていた本学に、その年の5月24日、鶴ヶ島市および鶴ヶ島市立図書館から大学と市の協定締結の打診があった。これに伴い、当館も図書館同士の協定について積極的に対応し、2ヵ月後の7月20日に相互協力協定を締結することとなった。その後、隣接する毛呂山町、坂戸市、日高市、越生町、飯能市とも協議を重ね、現在ではこれら6市町との提携が成立している。

さらに2013年6月4日、本学は、～地(知)の拠点としての大学と地域との連携共同宣言～を掲げ、キャンパスに沿って流れている高麗川流域を取り巻く鶴ヶ島市、毛呂山町、坂戸市、日高市、越生町の地域行政と、問題解決のための連携協力を開始した。地域教育力の向上や健康長寿の推進などを中心とした取り組みテーマを設定し、活力ある安心・安全な地域コミュニティ実現に向けた貢献を宣言している。

本学における地域連携の歴史に図書館が大きく関わっていることは実に誇るべきことである。

* 城西大学水田記念図書館

** 城西大学水田記念図書館・株式会社紀伊國屋書店

*** 城西大学水田記念図書館・日本アスペクトコア株式会社

2.2 館長及び主務者の集い

この集いでは前年度の連携事業報告と当該年度の合同主催公開講座、合同研修会のテーマを検討する。それらの会場や講師はテーマによって担当を分担しているが、2019年度の合同研修会と2020年度の事業は新型コロナウイルス感染症対策のため、苦渋の決断で実施を見送った。

館長及び主務者の集いは、公共図書館同士が現場の問題をタイムリーに共有できる貴重な場となっている。当館からは大学生の図書館利用の傾向や、連携地域住民の来館者数など当館の利用状況を報告する。事前に公開講座と研修会のテーマについてアンケートをとり、欠席館の意見も反映できるように配慮している。2018年度は7月3日に開催され、公共図書館から「利用者の多くは、食や健康・郷土史に興味を持っている」「利用者同士のトラブルについて対策していることがあれば伺いたい」という意見が挙がった。これを受けて公開講座は「特定保健用食品・栄養機能食品・機能性食品の違いや特徴（効能）」を中心テーマとし「健康食品との正しいつきあいかた」というタイトルに決定した。10月27日に坂戸市立中央図書館を会場として本学薬学部医療栄養学科の教員が講師となって開催した。研修会は「危機管理とクレーム対策」を中心テーマとし、「クレーム対応などに関するさまざまな事例」というタイトルで各館における事例紹介とそれに基づく意見交換を実施した。



図2.1 2016年度 館長及び主務者の集い

2.3 合同主催公開講座

公開講座⁽²⁾は大学が地域の生涯教育に貢献する上で重要なイベントとなっている。大学が主催する公開講座以外に、当館では地域の公共図書館と合同主催という形をとり、2009年11月に開催した「中島歌子の生涯 / 『おくのほそ道』の旅の成就」を第一回とし、以降毎年開催を続けてきた。

小規模な自治体では、財源が限られていることも多い。そのため、専門家の講師を招くことは容易ではなく、会場の確保も難しいといった事情がある。そのような自治体が抱える課題に対し、大学の資源である専門知識を持った教員に協力していただくことで、質の高い専門的な話題を無償で地域に提供できる。



図2.2 第4回「くすりにやさしく：知っておきたいくすりのかたちと正しい使い方」(2012年度)

公開講座の参加者は中高年の割合が多く、食や健康、薬に関する情報への興味関心の度合いが高い。テーマの検討に際し、当館長（薬学部教員）より、昨今の医療制度改革に関する話題が提供された。「公共図書館の健康に関する資料の選書を薬剤師会がサポートし、利用者がより正しい情報に触れられるようにすること」、また「薬学系図書館は公共図書館に専門性のある情報を提供し、公共図書館は啓発活動の前線として地域住民に情報を還元すること」といった各種の役割が期待されていることが話された。

過去には、第4回「くすりにやさしく：知っておきたいくす

りのかたちと正しい使い方」や第9回「地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割」を開催した。どちらの回も本学薬学部の教員が講師を務め、各回約50名の参加者が来場して大変好評だった。

また、時事問題や社会問題への高い関心に応えるため、第7回「TPPとアメリカの世界戦略：オバマ政権の推進するTPPの真の狙いは何か」、第8回「世界の中の日本、日本の中の世界－身近なグローカリズムを考える－」などでは、経済学部教員が講師として登壇した。TPPは当時高い関心が寄せられていたテーマだったこともあり、91名が参加するなど、多くの方が参加された。

公開講座は、地域イベントとして、参加者の知的好奇心を満たすことができ、同時に大学を身近に感じてもらえる絶好の機会でもある。2020年度はコロナ禍の影響があり、開催が難しい状況となっているが、今後も重要な地域貢献の場として継続していきたい。

2.4 合同研修会

研修会⁽³⁾は、館種を超えて図書館員間で日々の業務に関する悩みを解消することを目的に催されている。開催テーマについては毎回アンケートをとり、時節にあったものを取り上げている。初回はレファレンス事例を持ち寄って意見交換を行う場として実施し、第2回は「破損本の修理・補修」(2012年2月28日)と題して当館スタッフが講師となって実施した。好評であったため、翌年3月1日には実践編を開催した。公共図書館でボランティア活動をしている方など参加者19名が破損本を持ち寄り、実習しながら修理方法を学んだ。第9回には、「館内展示のアイデア・ポップ作成のノウハウ」(2018年3月22日)をテーマとし、各館で実際に作成・活用されているPOPを紹介し、グループディスカッションを行った。当館からも事例発表を行い、活発な意見交換の場となった。

2.5 今後の課題

図書館が館種を超えて連携することで、自館だけではできなかった活動が実現可能になったが、いくつか課題もある。指定管理者制度による担当者交替のため継続的にこれらの活動に関わることできない館や行事日程の調整が難しくなかなか参加できない館があり、その影響で運營業務に偏りが出

	演 題	会 場
第1回	中島歌子の生涯 『おくのほそ道』 の旅の成就	城西大学 水田記念 図書館
第2回	室生犀星－切なき 思ひぞ知る－ 小林一茶－ 『寛政三年紀行』 わらびの駅	城西大学 水田記念 図書館
第3回	原発と人間	鶴ヶ島市 立中央図 書館
第4回	くすりにやさしく －知っておきたい くすりのかたちと 正しい使い方	坂戸市立 中央図書 館
第5回	暮らしに役立つ身 近な経済・経営－ 高度成長を続ける 中国とどう付き合 うのか	城西大学 水田記念 図書館
第6回	地域産業の現在： JAPANブランド による今治タオル の復活	城西大学 水田記念 図書館
第7回	TPPとアメリカ の世界戦略： オバマ政権の推進 するTPPの真の 狙いは何か	城西大学 水田記念 図書館
第8回	世界の中の日本、 日本の中の世界 －身近なグローカ リズムを考える－	城西大学 水田記念 図書館
第9回	地域包括ケアシ ステムにおける薬 剤師の役割	鶴ヶ島市 立中央図 書館
第10回	健康食品との正し いつきあいかた	坂戸市立 中央図書 館
第11回	生活習慣病と地域 の特性見聞録： 埼玉県民は大丈夫 か？！	毛呂山町 立図書館

表2.1 「地域相互協力図書館合同主催
公開講座」過去の演題(2009
～2019)



図2.3 第9回「館内展示のアイデア・ポップ作成のノウハウ」(2017年度)

ているのが現状である。それでも互いの図書館利用者にとってより良いサービスを提供するためには、これらの活動は必須となっている。そのため「館長および主務者の集い」の欠席館には、事前アンケートを回答してもらう以外にも当日の配布資料や議事録を送付するなど、良好な関係を継続できるよう工夫している。

公共図書館と大学図書館という館種を超えた交流、それは自館を運営していく上で非常に心強い関係である。20年30年

先もこれまで築いてきた「顔の見える交流・声の聞こえる交流」が途切れぬよう、さらなる発展を目指していきたい。

3. 近隣公共図書館主催イベントへの参加

3.1 鶴ヶ島図書館まつり

地域連携が図書館から始まったことについては先にも述べたが、近隣公共図書館との相互協力事業の代表的なイベントに「鶴ヶ島図書館まつり」⁽⁴⁾が挙げられる。鶴ヶ島市立図書館は、年に一度図書館まつりを開催しており、本学薬学部の学生が作成した「みんなで栄養かるた」や「みんなでお薬かるた」を使用したかるた大会も行われていた。当館が初めて参加したのは2010年「第23回図書館まつり」で、「平成22年度第1回 地域相互協力図書館 館長及び主務者の集い」において、当館が参加を示唆したことにより始まった。参加にあたっては、「漢方医学古書と道具」と題し、当館所蔵の漢方古書資料や薬匙・薬籠、駅伝部関係の写真やユニフォームの展示を行った。併せて大学のグッズ、薬学部の研究成果である化粧品や栄養かるたなども販売し、来場者との交流を深める場となった。

展示として出展している漢方古書資料は、現代の医療、薬学、栄養学を学習する上で先人の叡智を学ぶことを重要と捉え、歴史的考察の資料として蒐集・保存しているものである。新旧の情報提供として来場者へ展示ブースの解説を行うことにより、本学の活動をアピールすることができる。また、近年では、先生方のご協力のもと、「体験型展示」にも取り組むようになった。2018年には、理学部数学科の小木曾先生にご協力いただき、「江戸時代の娯楽としての数学」と題し、所蔵している『塵劫記』復刻版をもとに、和算を利用した

実施回	出 展
第23回	漢方医学古書と道具
第24回	漢方医学古書と道具 日本近代漫画の先駆者：北沢楽天
第25回	日本の伝統医学：暮らしに生かす漢方の知恵
第26回	Cool Japan浮世絵の魅力：外国人から見た日本の美
第27回	日本人の知恵、漢方
第28回	世界を魅了した日本の版画
第29回	明治時代のくすり広告・紙看板
第30回	芭蕉と江戸俳諧の世界
第31回	江戸時代の娯楽としての数学
第32回	ディスプレイの仕組みと光の不思議：液晶の液ってなに？

表3.1 「鶴ヶ島図書館まつり」過去の出展内容(2010~2019)



図3.1 第31回「江戸時代の娯楽としての数学」大学院生による展示解説(2018年度)

「誕生日当てクイズ」や「油分けゲーム」などを来場者に参加体験してもらった。数学専攻の大学院生2名がボランティアとして参加してくれたことにより、ゲームを通して展示図書の解説や数学についての理解をより一層深める展示となり、特に親子連れには好評であった。2019年には、理学部化学科の橋本先生からレクチャーいただき、光の原則や液晶を説明するため、実験を交えた体験型の展示を行った。「今年の数学ゲームが楽しかったからまた来ました」という、親子からの嬉しい声もあつた。普段図書館で学生アドバイザー⁽⁵⁾として活動している

理学研究科物質科学専攻の1年生は、化学実験や展示の説明を行うかたちで活動に参加してくれた。展示の終了後には、「幼児からお年寄りまでたくさんの方が見に来てくれ、教員志望の自分にとって、目をキラキラ輝かせながら実験に参加する子供たちとの時間は幸せそのものだった」と感想を語り、地域社会とのふれあいが、本学学生にとってもかけがえのない貴重な体験になっていることをあらためて感じた。先生方にご協力いただいたこれらの参加型展示は、本学が有する学部についても広くアピールすることができ、貴重書の展示とはまた別の効果もあると考える。



図3.2 第32回「ディスプレイの仕組みと光の不思議：液晶の液ってなに？」図書館学生アドバイザーによる展示解説（2019年度）

3.2 ビブリオバトルの広がり

ビブリオバトルとは、制限時間5分間でおすすめの本を紹介しあう書評ゲームである。観客は一番読みたくなった本に投票し、「チャンプ本」を決めることができる。当館では、2011年6月に行われた「ビブリオバトル in 紀伊國屋大学生大会」への出場を契機とし、毎年「全国大学ビブリオバトル」予選会を主催している。当初から、地域の方もジャッジに参加いただいております。また、坂戸市立図書館ボランティアの方が見学に来てくださるなど、学生と地域の方が交流する機会にもなっていました。

こうした当館での取り組みをきっかけに、近隣の相互協力図書館にてビブリオバトル⁽⁶⁾の開催が徐々に広がっていった。先に紹介した「合同研修会」にて、取り上げるテーマを相互協力図書館に募集した際、「ビブリオバトルを開催したいと考えている。大学ではどのように運営しているか参考にしたい」との要望が寄せられ、2014年9月7日に実施した第5回合同研修会にて当館のビブリオバトルの開催事例を紹介した。それを参考に、2015年8月、日高市立図書館主催「2015夏の陣 図書館ビブリオバトル」が開催された。バトラーが高校生だったことから、「ぜひ大学生にお手本となってほしい」との依頼があり、本学からは3名が出場、うち1名がチャンプ本を獲得した。以降、同年9月には鶴ヶ島市立図書館主催「第28回図書館まつ

開催年度	主催図書館	出場学生数
2015	坂戸市	2
	鶴ヶ島市	1
	日高市	3
2016	坂戸市	2
	鶴ヶ島市	1
	日高市	1
2017	日高市	1
	坂戸市	2
	鶴ヶ島市	2
2018	日高市	2
	坂戸市	1
	鶴ヶ島市	1
2019	日高市	1
	坂戸市	2
	鶴ヶ島市	3
2020	日高市	1

表3.2 地域相互協力図書館ビブリオバトル本学学生参加一覧



図3.3 日高市立図書館主催「ビブリオバトル2018冬の陣」図書館学生アドバイザーによる発表



図3.4 坂戸市立図書館主催「第5回ビブリオバトル坂戸図書館」



図3.5 坂戸市立図書館主催「第5回ビブリオバトル坂戸図書館」本学学生がチャンプ本を獲得

り」にて「ビブリオバトル『わたしのイチオシ本』」が、同年11月には坂戸市立図書館主催「秋の図書館まつり」にて「第1回ビブリオバトル」が、次々に開催されることとなった。2020年度はコロナ禍の影響により、12月の日高市立図書館主催「ビブリオバトル2020冬の陣」のみの開催となったが、2019年度まで毎年学生への出場依頼が続いていた。日高市立図書館では、出場した高校生と交流の場を設けていただくなど、学生が直接地域の方と関わる貴重な機会となっている。

4. 図書館と県民のつどい埼玉

埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会が主催する「図書館と県民のつどい埼玉」⁽⁷⁾は、「本に興味をもっていただきたい、図書館について知っていただきたい」という思いから始められた、埼玉県内の大学、高校、市町村等の図書館が集まり実施する、県内最大の図書館イベントである。作家による講演や、県内図書館による展示や体験コーナー、中学生によるビブリオバトルなども開催され、毎年多くの来場者で賑わっている。

当館は、埼玉県内の大学・短期大学の図書館を会員とする地域コンソーシアムである「埼玉県大学・短期大学図書館協議会（略称SALA）」として、2009年度に開催された第3回から参加しており、「大学図書館のお宝、お見せします」と銘打たれた加盟機関有志による所蔵資料の合同展示を行っている。毎年10館前後の図書館がそれぞれ所蔵資料の展示を行っており、当館もコロナ禍により不参加となった2020年度を除いて毎年参加している。

この「図書館と県民のつどい埼玉」では、先述の鶴ヶ島図書館まつりと同様、当館所蔵の貴重書やコレクションの展示を行い、来場者との交流を図りながら本学をアピールしている。また、県内の県立図書館、公共図書館、高校図書館など

実施回	出 展
第3回	国勢調査の歴史
第4回	漢方医学古書と道具
第5回	日本近代漫画の先駆者：北沢楽天
第6回	日本の伝統医学：暮らしに生かす漢方の知恵
第7回	Cool Japan浮世絵の魅力：外国人から見た日本の美
第8回	日本人の知恵、漢方
第9回	世界を魅了した日本の版画
第10回	明治時代のくすり広告・紙看板
第11回	芭蕉と江戸俳諧の世界
第12回	江戸時代の娯楽としての数学
第13回	ディスプレイの仕組みと光の不思議：液晶の液ってなに？

表4.1 「図書館と県民のつどい埼玉」過去の出展内容（2009～2019）



図4.1 第8回「日本人の知恵、漢方」展示（2014年度）

様々な館種の図書館が参加していることもあり、情報交換などの交流の場にもなっている。

5. 城山中学校職場体験

当館は、地域貢献活動の一つとして、2016年より中学生の職場体験学習の受け入れ協力を行っている。毎年、城山中学校の1年生数名が当館に業務体験に訪れ、図書の受入業務や装備、貸出や返却などのカウンター業務を2日間体験し、3日目の最終日には、おすすめ図書としてそれぞれ持参した好きな本のPOPを作成、展示している。

中学1年生が、踏み入れたことのない職場という社会の中で、大人に混じりながら仕事を体験するということには、多くの不安や心細さを感じるだろう。それにも関わらず、一生懸命取り組む姿勢には、我々図書館員も学ぶべきことは多い。中学生における職場体験学習については、職業観を身に付けたり社会的なルールやマナーを体得するなどの意義がある。それとともに、受け入れる側にとっても、地域への貢献や職場の活性化などの意義も大きいといえる。職場体験により、地域の仕事や身近で働く人々への関心が深まれば、自分たちの住む町への愛着も深まることとなる。

地域全体で生徒を育てていくことに、当館も携わることができるのは、大変有意義なことと考える。

職場体験学習後には、生徒よりお礼の手紙をもらい、図書館でも中学校の了承を得て、体験学習の様子を図書館報『BookMark』やHPに掲載して広く周知している。3日間の体験学習に留まることなく、中学生の未来に教育支援というかたちで関わることができたなら、本学の目指している“地域と共にある大学”に近づけるのではないかと考える。

6. 地域アドバイザー

2014年に地域の方に図書館活動を支援していただく地域アドバイザー制度を発足した。当館をよく利用される地域の方の中から図書館長が委嘱し、経験豊富な人生の先輩による、本の魅力、読書の大切さを学生に伝えるためにご尽力いただいている。

2018年からは学生に読んでもらいたい本を推薦していただき、1冊ずつの選書コメントとともに館内展示を始めた。毎回バラエティに富んだ本が並び、ほとんど全ての本が借りられることもあり人気の展示の一つである。

さらにそれぞれの経験や知識を生かしたミニ講演会（ライブラリーラウンジ）⁽⁸⁾も実施し、学生との交流が広がっている。2018年6月には、地域アドバイザーの方を講師に招き、学生アドバイザー主催第15回ライブラリーラウンジ「問題解決ストーリー」を開催した。企業の現場における品質管理



図5.1 2019年度図書の装備作業を体験



図5.2 2019年度生徒2名が制作したポップ

(QC) について、長年のご経験を基にお話していただき、参加した学生からは「課題を明確にすることが大事だと分かった」「体験談を交えながらのお話だったので、参考になった」などの感想が寄せられた。主催した学生アドバイザーは事前に講師と打ち合わせを重ねるなど密にコミュニケーションを図った。毎年2月に実施する学生アドバイザーの送別会には地域アドバイザーの方もお招きし、世代を越えた交流を楽しんでいる。

7. ライブラリーカード会員制度

当館では、一般の方に対し、広く学習・調査または研究を支援し、学術情報資源の効果的な活用を地域に拡大することを目的とし、広く門戸を開いている。15歳以上の方なら誰でも入館し、資料を閲覧することができる。資料の閲覧だけでなく、2008年4月以降、18歳以上の社会人の方を対象にした貸出サービス「ライブラリーカード会員制度」も継続しており、2020年4月時点で近隣の方など40名が会員となっている。この制度は、相互協力図書館からの「直接大学図書館の本を借りたいという地域住民の要望に応えることこそ相互協力ではないか」との声を受け、開始した制度である。1,000円の年会費を払って入会后、開架の図書5冊を2週間の期間で借りることができる。利用している方からは、「法学部出身で卒業後も勉強を続け、大学時代の教授が執筆した論文掲載の紀要をよく利用している」「色々な分野に興味がある。大学には公共図書館にはない分野の本があるので毎日でも来たい」といった感想をいただいております、好評を得ている。

2020年度はコロナ禍の影響を受け、一般の方の利用を休止しており、残念ながら年間を通じて利用いただけない状況となった。2021年度も感染拡大の度合いによっては、現在の対応を継続せざるを得ない。長期化するようであれば、地域の公共図書館と連携し、代替となる手段を模索していく必要がある。

8. まとめ

本学は、地域社会と共にある大学を目指し、授業や学生によるボランティア活動などを通し、地域の文化・教育・環境保護に貢献してきた。当館もこの大学の理念に基づき、数々の地域貢献活動につ



図6.1 2019年度ミニ展示「地域アドバイザーおすすめ本」



図6.2 第15回ライブラリーラウンジ「問題解決ストーリー」(2018年度)

年 度	申込数	更新数
2008	61	—
2009	20	21
2010	28	21
2011	25	28
2012	24	29
2013	15	35
2014	20	40
2015	34	54
2016	25	50
2017	17	45
2018	18	40
2019	16	16

表7.1 ライブラリー会員申込数／更新数

いて幅広く取り組んでいる。こうした、地域の公共図書館や大学図書館との相互協力を通し、地域のネットワークを構築していくことは、つまりは当館のサービスや活動をさらに拡充することにつながる。

今後、大学における地域への社会活動の支援や生涯学習の支援、地域住民への開放は、さらに大学や大学図書館に求められる機能となっていくだろう。地域や地域住民から評価される「地域に根差した大学」として、さらなる地域連携活動を進めていきたい。

参考文献

- (1) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイト』
(<https://libopac.josai.ac.jp/>) (2021-1-27)
- (2) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイト地域相互協力図書館合同主催公開講座』
(<https://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm#kokaikoza>) (2021-1-27)
- (3) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイト地域相互協力図書館合同研修会』
(<https://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm#godokenshu>) (2021-1-27)
- (4) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイト鶴ヶ島市立図書館 図書館まつり』
(<https://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm#tsurugashima>) (2021-1-27)
- (5) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイト学生アドバイザー』
(<https://libopac.josai.ac.jp/apply/adviser.html>) (2021-1-27)
- (6) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイト地域相互協力図書館ビブリオバトル』
(<https://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm#chiikibiblio>) (2021-1-27)
- (7) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイト図書館と県民のつどい埼玉』
(<https://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm#tsudoi>) (2021-1-27)
- (8) 城西大学水田記念図書館『城西大学水田記念図書館ウェブサイトライブラリーラウンジ』
(<https://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics.htm#lounge>) (2021-1-27)